

2008年6月20日

NEC エレクトロニクス株式会社

エルピーダメモリ株式会社

表示パネル駆動用半導体分野で 合弁会社を設立することで合意

NEC エレクトロニクス株式会社（社長：中島俊雄、本社：川崎市、以下 NEC エレクトロニクス）およびエルピーダメモリ株式会社（社長：坂本幸雄、本社：東京都中央区、以下エルピーダ）は、表示パネル駆動用半導体（以下表示ドライバ IC）分野で合弁会社を設立することについて、本日、基本合意いたしました。

今回の基本合意は、2008年9月末を目処に合弁契約を締結し、2008年12月中に NEC エレクトロニクスが 8 割程度、エルピーダが 2 割程度出資して、表示ドライバ IC の開発、設計および販売を行う新会社の設立を目指すものです。この合弁会社は、NEC エレクトロニクスに加えて、新たにエルピーダの広島工場へ生産を委託する予定です。両社は新会社の事業を成功させるため、今後詳細について検討を重ねることにしております。

表示ドライバ IC とは、テレビやパソコン画面などの液晶やプラズマディスプレイ (PDP) を駆動させるために必要となる半導体製品で、ディスプレイパネルの周辺に組み込まれ、入力された表示データに基づいてディスプレイを駆動し、画面の表示を行うものです。

NEC エレクトロニクスは 1989 年、パソコンなどの大型液晶ディスプレイ用ドライバ IC を市場投入して以来、1996 年に PDP 用ドライバ IC を、1997 年には携帯電話などの小型液晶ディスプレイ用ドライバ IC を市場に投入するなど、積極的に事業を展開してまいりました。その結果、2007 年度は年間約 800 億円を売り上げ、世界シェアで 12～13% を有する世界でも有数の表示ドライバ IC メーカーとなっております。

一方、エルピーダは 1999 年 12 月の設立以来、日本唯一の DRAM 専門メーカーとして積極的な事業展開を図り、2007 年度は年間 4,055 億円を売り上げる、世界第 3 位の DRAM メーカーに成長しております。主力工場である広島工場の 300 ミリラインは、約 12 万枚 / 月の世界最大級の処理能力を有しており、世界でも最高クラスの生産技術を誇っております。

今回の基本合意は、表示ドライバ IC の生産効率を上げ同事業の拡大を図る NEC エレク

トロンクスと、300 ミリ生産ラインの効率的な活用を図るエルピーダの考えが合致したことによるものです。今回の基本合意により設立される予定の新会社は、NEC エレクトロニクスが実績を積み重ねてきた表示ドライバ IC の先端技術に、エルピーダが培ってきた DRAM 加工技術を活用し、チップサイズの縮小を加速させるプロセス開発を行います。また、300 ミリラインでの表示ドライバ IC の本格的生産により、高いコスト競争力が期待できます。両社は今後、双方の強みを活かし、事業の一層の強化、拡大を目指してまいります。

以上

ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

●報道関係からのお問い合わせ先

エルピーダメモリ株式会社
広報グループ 樋口・齋藤・鶴巻
電話：03-3281-1648
E-mail：press@elpida.com

NEC エレクトロニクス株式会社
コーポレートコミュニケーション部
電話：044-435-1676（直）
E-mail：press@necel.com